

私立大学図書館協会 2014年度西地区部会研究会について

本学図書館は、2014年度、標記研究会の会場当番校となった。以下、その報告を行う。私立大学図書館協会は2014年度加盟校536校、大きく東地区部会、西地区部会に分かれ、それぞれに下部組織（協議会）があり、組織単位で総会、研修会等を実施している。図書館業務における情報交換や共有の場として、全国の私立大学図書館員が注目する図書館協会である。うち本学が所属する西地区部会は、

加盟校267校である。

西地区部会研究会は、図書館員による研究・事例報告を主体とした研究会として加盟校による会場輪番制で毎年実施している。当番校は、大学規模や立地条件等により数年前に決定する。本学は前回2004年に続き、2014年度会場当番校となった。

本学における2014年度研究会は、下記内容で開催された。

私立大学図書館協会2014年度西地区部会研究会次第

1. 日 時 : 2014年9月13日(土) 10:00~

2. 会 場 : 大谷大学 1号館1113教室

3. メインテーマ: 「大学図書館と学修支援」

開会挨拶 部会長校 愛知学院大学図書館情報センター 館長 白石浩之
歓迎挨拶 当番校 大谷大学 学長 草野顕之

第Ⅰ部 研究発表

(1) 「愛知学院大学図書館情報センター ラーニング・コモンズ設置と今後の課題」
愛知学院大学図書館 榊原飛鳥

(2) 「学修支援の基盤構築をめざして」
花園大学図書情報センター(図書館) 塚田知子

(3) 「学生の自ら学ぶ力を育成する大学図書館の取り組み」
聖カタリナ大学附属図書館 玉岡兼治

(4) 「九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館の学習支援
—新たな取り組みに向けて」
九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館 矢崎美香

第Ⅱ部 記念講演

「<<対話>>空間としての図書館」 大谷大学教授 鷺田清一

閉会挨拶 当番校 大谷大学図書館 館長 番場 寛
以 上

毎年の部会研究会の詳細は、翌年度に刊行される「私立大学図書館協会会報協会会報」に掲載されるため詳述しないが、今般は今年度図書館の事業報告の一環として、記念講演をしていただいた本学教授 鷺田清一先生の講演内容の概要を館報に掲載し記録とする。

鷺田先生には、「《対話》空間としての図書館」と題して約1時間の記念講演を賜った。当日参加された約170名の図書館員の期待を受けて鷺田先生が登壇されると、会場は一瞬しんと静まり返った。鷺田先生が、柔らかい関西弁で、ときにユーモアたっぷりに事例を交えてお話されると、時折会場から笑い声が起るなど、終始和やかな講演会となった。

鷺田先生は、まず、近年の図書館の役割の変化について言及された。すなわち、従来の図書館は、本を読む場所、沈思黙考する場所であったのが、ラーニング・コモンズやチューデント・コモンズといわれるような勉強の場所、対話の場所、コミュニケーションの場所としての役割が付加されつつあると現状分析された。そのうえで、「図書館とは何をする場所なのか」、事例を挙げて話し進め

られた。

鷺田先生によると、本を読むことは、他者や他者の考えを知るための行為、すなわち文字を通した他者との「対話」であるとのこと。人は他者の考えに触れる体験をするために図書館という場所にいくのではないか。多様な事情により他者との関わりが薄れつつある今日の社会で、何んらかのきっかけによって、他者の考えを聞き、自身の考えを振り返り、お互いが少しずつ変わっていくことが「対話」ではないかと言及された。

特に大学図書館関係者へのメッセージとして、目の前の利用者のニーズに早計に対応しないで欲しいと述べられた。この国は100年後どうなっていないとならないのか、それを過去の歴史を踏まえながら考えるため、精密ではあってもすぐには役に立たないような研究も大学ではなされている。今現在は必要だと思えなくても、いつか別の場面で必要とされることがあるが、図書館とは、そういう作業のための備蓄庫である。現在の利用者のニーズが本当のニーズかどうか見極め、これからの図書館はさらにアグレッシブになるべきであると結ばれた。

〈文責：山内美智〉



会場風景



記念講演会風景